

令和4年度

教育行政執行方針

奈井江町教育委員会

も く じ

はじめに	1
1. 未来を担う子どもの育成	
(1) 学校教育を充実します	2
(2) 豊かな心と健やかな体の育成を推進します	2
(3) 快適な学習環境を推進します	3
(4) 多様な教育機会の支援を推進します	3
(5) 子どもの健全な育成を推進します	3
2. 生涯にわたる学びの推進	
(1) 生涯学習活動を推進します	4
(2) 楽しく参加できる生涯スポーツを推進します	4
(3) 個性豊かな芸術・文化を推進します	5
むすび	5

はじめに

昨年、生徒や保護者、学校、教育関係団体のほか、各界各層の町民にご参加を頂きながら、本町がこれまで取り組んできた教育行政の検証とこれからの教育に期待すること、必要なことをテーマに多岐に渡るたくさんの意見を頂きながら、およそ1年かけて奈井江町の教育大綱である新たな教育ビジョンを策定しました。

迎えた新年度は、この新教育ビジョンの理念と目標を実現していくための議論と実践をスタートさせる年になります。

初年度には、GIGAスクールなど、新たな教育環境の変容への対応と子どもの健やかな成長を支えていくために学校と保護者、地域が協働して学校運営を行う組織づくりの議論を行います。また、生涯学習においては近年、新たなスポーツ少年団が結成される一方で、永年活動してきたスポーツ協会加盟団体が解散するなどの新陳代謝が起こっており、町民の多様な生涯学習を支えて行くための議論が必要です。

これらのことを踏まえ、令和4年度に教育委員会が取り組む主要な施策について申し上げます。

1. 未来を担う子どもの育成

(1) 学校教育を充実します

町内の小中学校に 1 人 1 台タブレット型のコンピューター端末を導入して 1 年が経ち、教科を問わず様々な授業でタブレットが活用されるようになりました。効果的な指導を確立していくため、ICT 検討委員会での課題整理と奈井江町教育振興会での研修を深めます。

子どもたちが基礎基本を身に着け、学力を高めていくためには、ゲームや動画視聴などの時間を減らし、家庭学習の定着を図ることが重要です。引き続き“公設塾ななかま”や夏・冬休みに行う“子ども朝活事業”に取り組みますが、他方で大変残念ではありますが、生活習慣の確立や家庭学習の重要性を理解されていない保護者がいるのも事実です。親学セミナーの開催や今年度新たに実施する子どもと保護者が一緒に受検する検定、保護者のスマートフォンに直接、電子メール発出するなどの啓発事業を実施します。

また、町費による小学校での 35 人学級編成や特別な支援を必要とする児童生徒が学ぶための支援員の配置。2 名体制となった英語指導助手を 1 名ずつ小中学校に配置し、かつ認定こども園や奈井江商業高校にも派遣するなど、安心してきめ細かな学習環境を継続します。

(2) 豊かな心と健やかな体の育成を推進します

奈井江町の基幹産業である農業や地元企業について学ぶ“ふるさと学習”を継続し、子どもたちの郷土愛や将来の夢を育み、社会性を身に着ける学習を推進します。

自己の生き方を考え、自立した人間としての成長を涵養するため、学校活動全体を通じた道徳教育を推進します。また、子どもたちへのアンケートや教育相談などを実施し、悩みごとの解消や いじめの早期発見、早期対応に努めると共にスクールカウンセラーを活用し、子どもたちの心の成長を支援します。

(3) 快適な学習環境の整備を推進します

本町では既に 前述した田植えや稲刈りを始め、企業見学の受け入れや町民ボランティアが参加するスキー学習など、多くの町民の力を借りて授業を行ってきましたが、これからは一歩進んで学校と保護者、地域が知恵を出し合いながら学校運営に取り組んでいくことを目指す、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の設置に向けた検討委員会を発足させます。

(4) 多様な教育機会の支援を推進します

幼小中高の連携による乗り入れ授業や授業交流など、学校間の相互理解と相互支援の充実を図ると共に新入学児童生徒の学用品費の負担が困難な家庭に対する就学援助を継続します。

道立 奈井江商業高校の入学者数が、2年続けて定員の半数以下となり、たいへん厳しい状況です。引き続き高校と連携を図り、生徒が魅力を感じる学校となるよう検討し PR 活動などを実施します。

(5) 子どもの健全な育成を推進します

小学生には演劇を、中学生にはコンチェルトホールでのコンサートを開催し、生の迫力を体験させると共に観るマナー、聴くマナーの

習得を行います。また、「子どもの権利に関する条例」に基づき、町長と語る会や子ども会議の活動を支援し、社会参加を促進します。

2. 生涯にわたる学びの推進

(1) 生涯学習活動を推進します

新型コロナウイルスが変異を続けながら蔓延する中、町民一人ひとりが“不要不急とは何か、”を問われました。教育に焦点を当てるとこのコロナ過を乗り切るため、町民が心豊かに過ごすためには、自分の好きなことを見つけ、それを学び続けていくことがとても大切だと考えています。多彩な公民館講座を企画する一方で、昨年好評だった公民館ロビーでの“町民ギャラリー、”を継続し、町民同士のコミュニケーションや地域活動を促進していきます。

また、読書活動の推進も、とても重要です。乳児に絵本を贈呈するブックスタート、3歳児とその保護者に本を紹介し、読み聞かせを行うブックセカンド、5歳児に活字の増えた絵本を贈るブックサード事業を継続します。児童生徒の読書離れも進んでいます。新年度は、まず奈井江中学校の校内図書室の環境整備と読書活動の推進に取り組みます。

(2) 楽しく参加できる生涯スポーツを推進します

生涯スポーツを推進するため、令和4年度は老朽化した体育館の床と照明の大規模改修に取り組みます。なお、工事期間が約半年間に亘ることから、小中学校の体育館と公民館大ホールを活用し、スポーツ活動の継続を確保します。

(3) 個性豊かな芸術・文化を推進します

名だたるプロの演奏家からクオリティの高さが評価されているコンチェルトホールで、世界3大教育音楽祭の1つであるPMFの演奏会など、多彩なコンサートを開催します。また、老朽化により故障している交流談話室や練習室などの空調設備を更新します。

むすび

以上が、令和4年度に取り組む主要な教育施策です。

新年度も、学校教育や生涯学習共に主体的な学習機会の創設と学び続けるための環境を確保するため、様々なチャンネルを通じて町民議論を行い、教育ビジョンの着実な推進を図ります。

町民の皆様には教育委員会や学校と共に歩む協働のお願いをすると共に議会の皆様のご理解とご支援をよろしく申し上げます。